

# はしがき

## ■ 編集の趣旨

巷間をにぎわした、改訂『学習指導要領』による新教科書で学ぶ高校生・受験生用として、期待される**発展**学習に応えるべく、小社では新しい『**発展30日完成シリーズ**』を企画し、順次刊行してまいります。

編集にあたっては、小社版簿物シリーズの長所はすべて採り入れ、良問の精選と、詳しく誰にでもわかる解答を心掛けました。

本書は、このシリーズの一冊として、古典文法の基本的な知識全般について、**自分の手で整理しながら理解すること**を目指して作成しました。高校一・二年生を主な対象としましたが、基礎から着実に復習したいと考える三年生にも適します。

## ■ 本書の特長

- 1 書名にあるとおり、三十日間、毎日一つの小テーマについて練習を積み重ねると、**古典文法の基礎的な知識**が一通り学習できるように工夫してあります。
- 2 毎日の学習項目は、だいたい普通の古典文法テキストの流れに沿っていますから、自力で無理なく進められると思います。
- 3 古典文法の知識として基本段階でとくに重要なものは、**用言・助動詞・助詞・敬語法**です。本書でもその分野に重点的にページを割きました。

編者

4 上段に、「今日の学習」としてその日の学習事項を整理してまとめられます。ただし、**要所は空欄**になっているので、自分でいねいに埋めてください。この部分は最重要事項ですから、最終的には記憶するようにしましょう。

5 下段には、典型的な例文による練習問題を配しました。これを解くことで、上段で学んだ知識を確認します。

6 第30日には「**主な文法用語**」を取り上げました。ミニ文法用語辞典として活用してください。

7 「別冊解答書」には、自学自習でも十分理解が行き届くよう、「**解答**」のほかに、具体的な解法を示した詳しい「**解説**」と問題文すべての「**品詞分解**」「**口語訳**」をつけました。

特に「**解説**」には、本冊で触れられなかった「**重要知識**」に言及しているところがありますので、ぜひ熟読してください。

8 この「サブノート」が完成したら、古文学習の際いつも**座右**に置いて煩をいとわず参照しましょう。その都度知識が確かなものになっていくはずですよ。

本書によって、古文読解力の基礎となる古典文法の知識が確実に身に付くことを期待しています。

## 目次

|      |               |    |      |                   |    |
|------|---------------|----|------|-------------------|----|
| 第1日  | 五十音図と歴史的かなづかい | 4  | 第16日 | 断定・伝聞推定・願望・比況の助動詞 | 34 |
| 第2日  | 言葉の単位と品詞分類    | 6  | 第17日 | 受身・使役の助動詞         | 36 |
| 第3日  | 用言と活用形のはたらき   | 8  | 第18日 | 助詞の分類             | 38 |
| 第4日  | 動詞(1)         | 10 | 第19日 | 格助詞               | 40 |
| 第5日  | 動詞(2)         | 12 | 第20日 | 接続助詞              | 42 |
| 第6日  | 動詞(3)         | 14 | 第21日 | 副助詞               | 44 |
| 第7日  | 形容詞・形容動詞      | 16 | 第22日 | 係助詞と係り結びの法則       | 46 |
| 第8日  | 用言の音便・語幹の用法   | 18 | 第23日 | 終助詞・間投助詞          | 48 |
| 第9日  | 副詞・連体詞        | 20 | 第24日 | 主な識別              | 50 |
| 第10日 | 接続詞・感動詞・名詞    | 22 | 第25日 | 敬語の種類             | 52 |
| 第11日 | 助動詞の分類        | 24 | 第26日 | 主な尊敬語・謙讓語・丁寧語     | 54 |
| 第12日 | 過去・完了の助動詞     | 26 | 第27日 | 注意すべき敬語・敬語の考え方    | 56 |
| 第13日 | 推量の助動詞(1)     | 28 | 第28日 | 注意すべき文の構造         | 58 |
| 第14日 | 推量の助動詞(2)     | 30 | 第29日 | 和歌の修辭法            | 60 |
| 第15日 | 打消・打消推量の助動詞   | 32 | 第30日 | 主な文法用語            | 62 |

今日の学習

高校で学習する古文には、ふつう歴史的かなづかいが用いられています。そこで、文法そのものを学ぶ前に、まず五十音図と歴史的かなづかいの読み方の原則（とくに現代かなづかいと異なる点）について一通り整理しておきましょう。

1 五十音図（ひらがな）

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
|    | ア行 | イ行 | ウ行 | エ行 | オ行 |
| ワ行 | wa | wi | u  | we | wo |
| ラ行 | ra | ri | ru | re | ro |
| ヤ行 | ya | i  | yu | e  | yo |
| マ行 | ma | mi | mu | me | mo |
| ハ行 | ha | hi | hu | he | ho |
| ナ行 | na | ni | nu | ne | no |
| タ行 | ta | ti | tu | te | to |
| サ行 | sa | si | su | se | so |
| カ行 | ka | ki | ku | ke | ko |
| ア行 | a  | i  | u  | e  | o  |

\*五十音図の、縦の並びを行、横の並びを段とよぶ。

1 歴史的かなづかいによる五十音図のうち、ア行・ヤ行・ワ行をひらがなで正しく書きなさい。

|    |  |  |  |  |  |
|----|--|--|--|--|--|
| ア行 |  |  |  |  |  |
| ヤ行 |  |  |  |  |  |
| ワ行 |  |  |  |  |  |

2 五十音図には「い」「う」「え」のかなに重複があるので、異なるかなは全部で四十七になります。そのすべてのかなを一度ずつ用いて作られた歌が「いろは歌」です。

漢字かな交じりで掲げるので、すべてひらがなに書き改めなさい（その際、濁音は清音に改めること）。

色は匂へど 散りぬるを 我が世たれぞ 常ならむ  
有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

2 歴史的かなづかいの読み方の原則

1 語頭を除くハ行音の読み

|     |    |              |
|-----|----|--------------|
| 表記  | 発音 | 語例           |
| ① は |    | かはら（川原） ↓カワラ |
| ② ひ |    | あひだ（間） ↓アイダ  |
| ③ ふ |    | ゆふべ（夕べ） ↓ユウベ |
| ④ へ |    | かへり（返り） ↓カエリ |
| ⑤ ほ |    | すなほ（素直） ↓スナオ |

\*ワ行音に読み替える。

2 「う」に続く連母音の読み

|      |    |               |
|------|----|---------------|
| 連母音  | 発音 | 語例            |
| ① アう |    | かうし（格子） ↓コーシ  |
| ② イう |    | さいう（左右） ↓サイウ  |
| ③ エう |    | てうど（調度） ↓チョード |
| ④ オう |    | どうじ（童子） ↓ドージ  |

\*それぞれ長音で読む。

3 ワ行の「ゐ」「ゑ」「を」は「イ」「エ」「オ」と読み、ダ行の「ぢ」「づ」は「ジ」「ズ」と読む。

4 助動詞「む」「らむ」「けむ」、助詞「なむ」などに含まれる「む」は「ン」と読む。

3 次の各語の読み方を、現代かなづかいによるカタカナで答えなさい。

- |           |          |
|-----------|----------|
| (1) あはれ   | (2) こひし  |
| (3) ゆふべ   | (4) かへす  |
| (5) ほのほ   | (6) やうやう |
| (7) いみじう  | (8) せうと  |
| (9) おもふ   | (10) まるる |
| (11) ゆくすゑ | (12) をかし |
| (13) ゆめぢ  | (14) いづれ |

4 次の文の傍線部①～⑤の語句の読み方を、現代かなづかいによるカタカナで答えなさい。

(1) 今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつ  
つ、よろづのことに使ひけり。（竹取物語）

(2) それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（竹取物語）

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | ② | ③ |
|   |   |   |
| ④ | ⑤ |   |